

# 講座のあらまし

## 教育技術と知識創造



内容説明

### 新しいアイデアを開発し問題を解決していく過程を学習します

教育を取り巻く環境はますます複雑になっていて、学習者も多様化しているので、混迷をきわめた問題に直面することが多くなっています。大学や研修所で学んだ内容がそのまま役立つことは少ないでしょうが、学び方や問題解決への考え方や態度が役立つことが多くあります。したがって、この講座では、みなさんが、様々な問題に直面した時のことを予想しながら、自分たちで新しいアイデアを出し、問題を解決していく過程を学習します。

#### 問題解決としての教育技術

- 複雑化している学校の問題
- つねに新しい問題が発生する
- 子どもは多様である
- 社会の要請や親の期待は大きい

あなたならどうする？

問題解決のための知識創造

### 知識創造のチームを組んでチャレンジする講座

この講座では、教育技術についての知識を習得するだけが目的ではなく、学校教育を全体として捉えること、さらに教育の技術や方法を自分で開発していくときの基礎となることを学びます。したがって、講座での説明を聞いて理解するだけでは不十分で、みなさんがチームを組んで問題解決や新しい知識を生み出すことを体験する講座になることを目指しています。チーム学習では役割を分担し、さらに個人学習とチーム学習とを組み合わせた学習もします。情報を集めたり、役割を分担したりして具体的に活動しながら学習します。それが現実の生活であり仕事です。あなたの問題に他人が解決策を与えてはくれませんから、あなた自身が解決していかなければならないのです。

### 新しい知識はどのようなときに生まれるか

新しい知識は恵まれた人にだけ生まれるものではありません。注意しておれば、あるいは努力しておればフッと湧いてくるものです。大切なことはそれに気づき、消えないうちに記録して、組織的に新しい知識としてまとめていくことです。そのためには手帳やケータイのメモを利用して記録します。そのような思い付きをまず集めることが大切です。そのあとで問題解決に役立つようにまとめていきますが、そのときに自分ひとりでははっきりしたアイデアにまで詰めていくことはなかなかできないものです。しかしチームで議論していると、しだいに明確な知識になります。

#### 知識はどのようなときに生まれるか

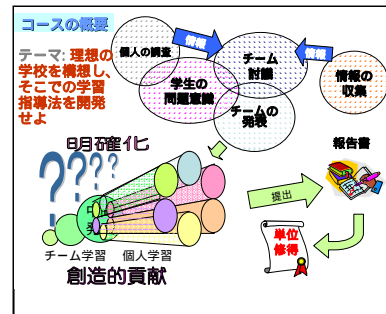
- 追い詰められて困っているとき
- 新しい事を始めたいとき
- 他人と競っているとき
- グループやチームで話し合っているとき
- 一人でくつろいでいるとき
- 違った考えを比較しているとき
- その他にもっと列挙してみよう

### チーム学習によって新しい知識を創造する

この講座は、基本的にはチーム学習と個人学習との両面から進んでいきます。新しいアイデアは最初のうちはぼんやりしていて、自分でもそれが新しいものなのか、あるいはすでに広く用いられているものなのかは不明です。し

かし、自分で考えているうちに自分に納得できるものになっていきます。さらにそれをチームの人たちに示したときに他の人も納得して合意に達するようなものであれば、かなり有望です。それを文章にまとめておきましょう。このようなアイデアが報告書を書くときに役立ちます。報告書にまとめて他人を説得できると、自分のアイデアを社会的に役立つものにする事ができます。

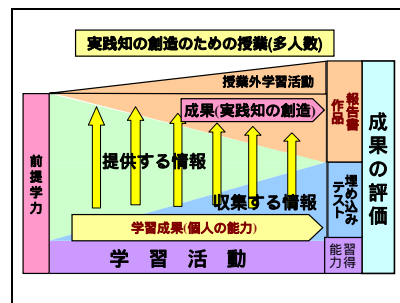
以上のような状況を図にすると右のようになるでしょう。スタートしたときはまだ自分たちの考えが明確でないの、何をしたいのかわからない。しかし、誰でも学校生活を経験してきていますから、漠然とはしていても何らかの理想的な学校のイメージをもっているはず。このような問題意識から始まって、チームで討議し、チームで発表することを目指してまとめていきます。そのときに必要な情報を集めたり、個人で調査したりします。さらに最近ではほとんどの学校がホームページを公開していますから、自分の母校だけでなく、さまざまな学校を訪問してみよう。



## 学習成果を目指した学習

これまでの講座では、最終的な目標が示されないままで講義が進行し、最後に課題が出されてレポートを書くというのが普通です。レポートは学習の目標として目指されるものではなく、どれだけ頑張って勉強したかを評価するために課されます。しかし、一般の研究や仕事では、最終成果がはっきりした形で進むのが普通です。どのような論文を書くか、どのような製品を開発するかなど目指すところは、最初はばくぜんとしていても、しだいにはっきりしてきます。したがって、この講座でも期待されている学習成果は明確です。それは将来の学校とそこでの学習指導の基本的な考え方をまとめて他人を説得できるような報告書にすることです。いろいろな参考書や資料などを読んで、どのようにまとめればいいのかを意識することが大切です。

最終報告書は、指導者に対する報告書ではありません。自分たちが考えたこと、調べたことなどを活用しながら、自分の考えをできるだけ明快に展開して、提案書を公開して他人からの評価を受けることを目指します。



### 新しい知識をまとめていく

- 混沌とした段階
- 自分が納得できる段階
- チームで合意できる段階
- 文章にまとめられる段階
- 報告できる段階
- 説得できる段階